

学校概要

創立 8 周年	学校長 前田 周子	副校長 安富 直樹	学期 二 学期制	児童・生徒数 261 人
学級数 一般級: 10 個別支援級: 3			主な関係校: 上白根中学校	

学校教育目標

このまちに生き、共に輝く子

- 課題解決に向け、粘り強く取り組む子を育てます(知)
- 自分も相手も大切に思いやりのある子を育てます(徳)
- 心身共に健康で、あらゆる命を大切に育てます(体)
- 人のために役立つ行動をし、地域に愛着をもつ子を育てます(公)
- コミュニケーションの力を伸ばし社会への視野を広げ実践できる子を育てます(開)

学校の特徴

□学校は静かな市営・県営集合住宅の中にあり、四季の森公園やズーラシアもあり、自然環境にも恵まれている。  
 □1小1中ブロックのため、9年間で子どもを育てる教育環境があり、小中学校での情報交換を密接に行うことができる。  
 □規模が小さいため、子どもの実態を細やかに把握することができる。□児童は素朴な自尊感情をもち、学校生活への満足度が高い子が多い。■学校周辺団地の少子高齢化により学校規模が縮小し学校運営上の人的余裕がないため、一人ひとりの教職員が分担する業務が多い。■経験の浅い教職員の増加と教職員の入れ替え時期が重なり、それぞれのキャリアステージにあった人材育成が必須である。■家庭の教育力に差があり特別支援の必要な子どもと保護者が多数存在する。

学校経営中期取組目標

- 一人ひとりの思いや願いなどを丁寧に受け止め子どもに寄り添いながら、温かな人間関係を育てていきます。
- 家庭や地域・幼保小中と連携し、保護者がわが子を通わせたいと願い、子どもが心から明日も来たいと願う学校づくりを目指します。
- 問題解決学習に取り組む共に学ぶ楽しさを実感しながら基礎的な学力を身につけられるよう、授業力の向上を目指します。

小中一貫教育の取組

上白根中 ブロック : 上白根中学校 四季の森小学校

9年間で育てる子ども像	○基礎・基本の学習の習得に努め、ともに学び続けられる子ども ○互いに認め合い、心と体を健やかに、正しく判断でき、行動できる子ども
自校の具体的取組	・小中学校で子ども像を共有しながら生活指導や特別支援教育の情報交換を密に行う。 ・年2回の小中合同会議や年4回の小中授業参観、小中授業実践研修を通して9年間での授業作りを推進する。 ・学力・学習状況調査のデータを小中学校で考査し、学力に関する重点目標を共有し、授業に生かす。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	一人ひとりの児童の学ぼうとする意欲を高め、わかる授業、関わり合える授業、追究の楽しさのある授業を目指します。	①授業力向上のための授業研究会を充実させると共に、校内研修の充実を図り、授業改善や指導力の向上に努める。②教職員の共通理解の上、学習に向かう基本姿勢を身に付ける。③ノート指導に丁寧に取り組み、一人ひとりの学習状況の把握と学習意欲の向上につなげる。④学習習慣が身に付くよう家庭学習を促す。
豊かな心	人やものとの豊かなかわりや多様な体験活動を通して、豊かな心と規範意識・物事の善悪をきちんと判断し人権を尊重する心を育てます。	①年間を通して仲良し班遊びの時間を設定し縦割り班活動を通じ異学年間のつながりを築く。交流活動を通して関わり合いを大切にする。②挨拶を年間を通して学年に応じて指導するとともに児童自身の取り組みとして活動する。③小中協力して人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪を判断し人権を尊重する心を育てる。
健やかな体	児童の体力向上と自己の健康管理力を高め、健やかな体づくりを目指します。	①学校保健委員会を中心に生活習慣等について発信し、健康についての意識を高める。②学校便りや保健便り・学級指導を通して、児童の体力向上と自己健康管理能力を高める。③長縄やドッジボール大会など運動に親しむ機会を増やす。④給食指導に教職員の共通理解のもと取り組み、安心安全な給食を実施し食教育に取り組む。
児童・生徒指導	規範意識を育てるとともに、自尊感情を高め、温かな人間関係作りを努めます。	①学校長のリーダーシップのもと、児童支援専任を核として教職員で共通理解を図り児童指導に当たる。②毎月の職員会議等で児童についての情報交流を行う場を設け、指導の方向性を一致させて全職員で支援に取り組む。③情報の共有、報告・連絡・相談の励行と経過の記録を蓄積する。
特別支援教育	配慮を要する児童に適切な支援を行うため、教職員の連携・情報交換を密にして、学校支援体制の充実を図ります。	①特別支援コーディネーターを中心に関係機関やSC、非常勤講師との連携を充実させる。②一人ひとりの課題に応じた個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別支援コーディネーターを中心に学校支援体制の充実を図る。③支援が必要な児童への対応を充実させる。
教師力の向上	教職員の児童理解の質を高め、授業力・危機管理能力を向上させます。	①特別支援教育を基礎に教職員一人ひとりの児童理解の質を高める。②教職員が各々の専門性を生かし、互いの学級経営や授業を見合いながら自他共に授業力・教師力を高める。③教職員が積極的に研修に参加し、視野や見識を広め、研修内容を校内に還元していく。④危機管理能力向上を図り学校現場での事例を基に日ごろから対応策等に取り組む。
地域と学校との連携	保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努めます。	①学校説明会や学校便り、メール配信など、学校からの情報発信を工夫する。②上白根中学校区学校運営協議会の意見を真摯に受けとめたり保護者や学生ボランティアの協力を積極的に取り入れたりする。児童の安全対策について発信、協力を依頼する。③幼保小連携の一層の充実を図る。④学校開放等のルールを見直し基本に立ち返った運用を目指す。
いじめへの対応	いじめ重大事態に関する再発防止に向けて、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組みます。	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」や定期的な実態調査を実施し、受容的な学級づくりや環境づくりに努める。②道徳教育や人権教育の充実を図りいじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、組織的な対応力の向上を図る。③保護者との日常的なコミュニケーションを図るとともに関係機関との連携・協働を密にする。④効果的な職員研修を実施しより理解を深める。
人材育成・組織運営	教職員一人ひとりが自分の役割を自覚し、よさを発揮しながら、それぞれのキャリアステージにあった役割に取り組めます。	①年次研修の充実を図り、併せてメンターチームによる人材育成研修を活性化させる。②学年やブロック体制を基本に、日常の業務中の学びをお互いの成長につなげる。③主幹教諭を中心とした組織の中で、教職員一人ひとりが自分の役割を自覚しよさを発揮しながら、提案型組織となるようにする。